

D1 中層集合住宅の維持管理に関する研究

その3 結露の被害について

大谷女短大・藤本佳子 奈良女大家政 足田洋子

目的 結露が特に問題になるのは、鉄筋コンクリート建物である。結露の物理的現象は明らかではあるが、結露を発生させる条件をつくり出す建物側の背景は複雑であり、いくつかの原因が複合して結露条件となっていることが多い。

ここでは、住戸内の結露被害の発生箇所、部位等について報告を行う。

方法 調査対象地、方法等はその1に同じである。

調査内容は、結露被害の有無、結露被害の発生場所、被害の時期等である。

結果 鉄筋コンクリート在来工法の中層集合住宅の結露被害について、居住者アンケート調査の結果以下のことが明らかになった。ただし居住者調査であるゆえに、目につきやすい表面結露の被害が大きく出てきていると考えられる。

①結露被害の経験は、64%のものが経験している。②住棟タイプは、フラットタイプよりスタータイプに結露被害の発生が多い。又階段室が密閉タイプより開放タイプの方が結露被害が多い。③住棟の階数では、1階が最上階、中間階より多く、特にその部分の1階は10%の住戸が結露被害を訴えている。④住棟内では、専任住戸に結露被害が多い。⑤被害の発生した住戸内の箇所は、押入、浴室が多い。⑥発見した年は、比較的築初期に多くみられる。

